

研究・研修報告書



3 研修会関係

令和 7 年 10 月 14 日

小牧市議会議長 様

会派名 牧政会
代表者氏名 河内伸一

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員 河内伸一、小島倫明、石田知早人、鈴木裕士、佐藤悟、
余語智、阿部哲己、永井孝典

2 日程

令和 7 年 10 月 9 日、10 日（木、金曜日）

3 研究・研修名

第 87 回 全国都市問題会議

4 主催者

全国市長会、（公財）後藤・安田記念東京都市研究所、
（公財）日本都市センター、宇都宮市

5 会場

ライトキューブ宇都宮（栃木県宇都宮市）

6 受講の目的

「第 87 回 全国都市問題会議」において、主題とされる『成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり～』は、近年小牧市においても重要な懸案事項でもあり、この会議に参加することで、各地自治体の先進事例、並びに課題やその取り組みについて見聞を広め、その知見を小牧市政に反映、また活用することを目的とする。

7 主な内容

成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり～

- ・人口減少・成熟時代の都市とまちづくり
- ・人口減少社会に対応する都市の構造改革
- ・「縮充」発想による公共施設マネジメント
- ・都市縮小時代の持続可能なまちづくり
- ・次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり
- ・他、パネルディスカッション

8 所感・提言・課題等

所感として、日本は既に「成長」よりも「持続」が重視され、「成熟社会」に突入し、その対応が早急に求められている中、全国の20万人以下の地方都市は中心市街地の衰退、郊外化、公共交通の衰退が進行し、これらの課題に対して「コンパクトシティ化」が求められていることを当会議において、日本各地の先進事例や、課題への取り組みについて、大変興味深く学ぶことが出来た。

基調講演の中でも出てきた言葉に「多極集中」という言葉。

「一極集中と多極分散」という言い方はこれまで馴染みのある言葉だったが、「多極集中」という概念は新鮮であった。

多極分散では地方が低密度になるので、多極でありながら、各々の極は集約されている、という考え方。

更に「ネットワーク型コンパクトシティ化」「ウォーカブルで歩行者中心のコミュニティ空間」というのも、これからの日本の地方に求められるのではないかとも思った。多くの地方が「車社会」であるが、車が入れない空間を生み出して、そこに歩行者だけの空間を生み出す。既に先進事例として、姫路市や米子市の例が挙げられていた。小牧市において、これが即実現化するには相当な時間を要すると思われるし、長年「車社会」でなじんでしまっていると、その意識を変革するにも相当な時間を要すると思った。講演でも「50年」という年月が言われていた。

また、北海道室蘭市の公共施設の統廃合の話も非常に興味深く、本市においても参考に出来る部分があるのではないかと感じた。

3 研修会関係

小学校をはじめ、各公共施設、地域の公民館などの利用頻度・利用時間帯などを詳細に調査・研究・検討して、1つの施設で、それぞれの市民のニーズに合わせた空間・施設・時間割を創り出し、これまでの公民館といった多目的な施設を逐次廃止していくなどの手法は、非常に学びとなり、本市でも活用できるのではないかと考えて拝聴した。

また、鳥取県米子市の歩道の拡充によって、ベンチの設置や景観を楽しむ散歩コースなどの取り組みも興味深かった。

米子市では、「歩いて楽しいまちづくり」をコンセプトに、中心市街地を「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の空間に転換すべく、国土交通省のまちなかウォークブル推進事業を活用して、本事業を推進したとのことで、ＪＲ米子駅周辺の整備や街頭・歩道の美装化などハード面の整備と、公共空間の規制緩和や商店街でのイベント開催への支援や官民共同でウォーキングイベントの推進に取り組み、地域住民だけでなく、観光客にも「歩いて楽しい」を実感してもらえる街を目指しているとのことだった。

そのほか、多くの参考になる課題提案、先進的取り組みなど、学ぶことは多くあった。

提言・課題として、本市においても「巡回バスこまくる」は、市内各地を市中心部（市役所・病院・主要駅）に繋ぎ、「市民の足」となるよう整備しており、それらの充実を図るためにも、自動運転化を検証しているところであるが、あくまでも「市内」に限った移動手段である。

「ネットワーク型コンパクトシティ」という観点からすると、隣接市町の公共交通機関との連携や相互乗入れ、名鉄小牧線と名鉄犬山線を繋ぐ新規路線や、桃花台住民の悲願でもあるＪＲ高蔵寺駅、ＪＲ春日井駅までの大量輸送手段など、検討出来る要素はまだ多い。

交通手段は今や「福祉」の意味も強くなり、よりきめ細やかな移動手段の確保が、今後更に加速するのではないかと考え、民間ボランティア、事業体、商工会、住民、様々な意見や、その「思い」を分かち合う機会を作れたらよいのではないかと考える。

また、小牧駅から小牧山までの通りを更に充実させ「歩きたくなる道」を整備し、店舗を構えたいくなるような、そのお店に行きたくなるような散策道の整備を進め、地域活性を行政と民間で推進出来たらとも思う。

特に、駅前広場から小牧山までの道・空間を、更に魅力ある街の顔にするとともに、小牧市郊外においても「四季の森」「パークアリーナ」「さかき運動公園」他、市内各地の公園や、市内を流れる川・用水などの堤防道、遊歩道などを整備することで、「環境と健康」に寄与出来る街になるのではないかと考える。

本市ウォーキングアプリ「alko(アルコ)」とGPSを連動させて、ボーナスポイント獲得できるスポットの設置や、今でも人気のスマホアプリ「ポケモンGO」のような、ゲームアプリとのコラボにより、レアキャラGETできるようにするのも、面白いと思った。

引き続き、小牧市の発展と持続する未来と、市民の満足と、誇りが持てる街にするべく今回の学びを活かしていきたい。